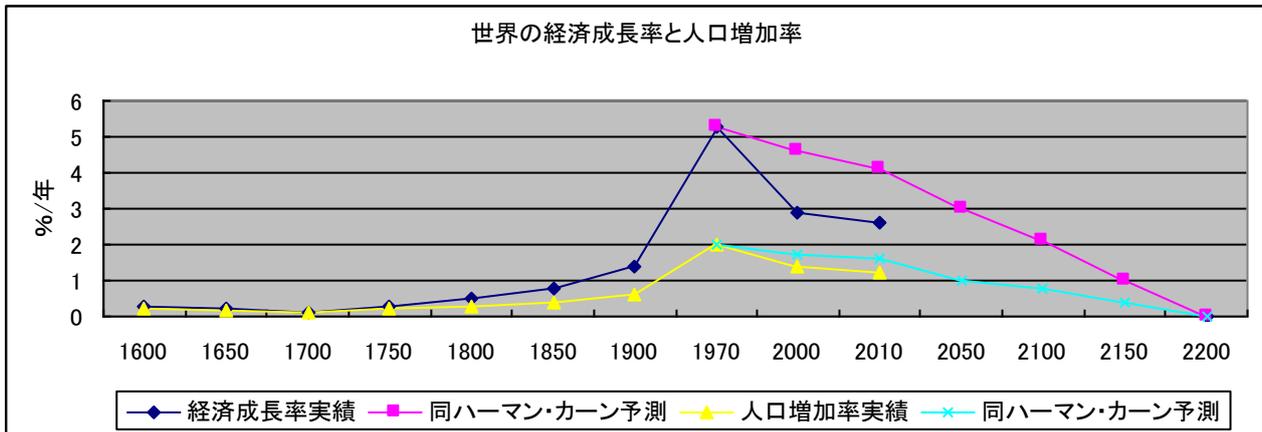


### 1. 衰退期を迎える世界

世界経済の成長率は、1970年ごろピークを付けた後40年間、一貫して鈍化している。特に先進国の落ち方は顕著且つ法則的である。その要因は構造的であり、①耐久消費財の飽和②国際競争での劣位化③環境・資源悪化④人口減少⑤金融バブル破綻の悪影響、等々にある。このまま行けば、先進国の衰退傾向はいずれ途上国にも波及し、遅くとも21世紀後半には世界全体が成長の限界に達し、停滞・衰退への道に入る（40年以上前ローマ・クラブが予測したことでもある）であろう。



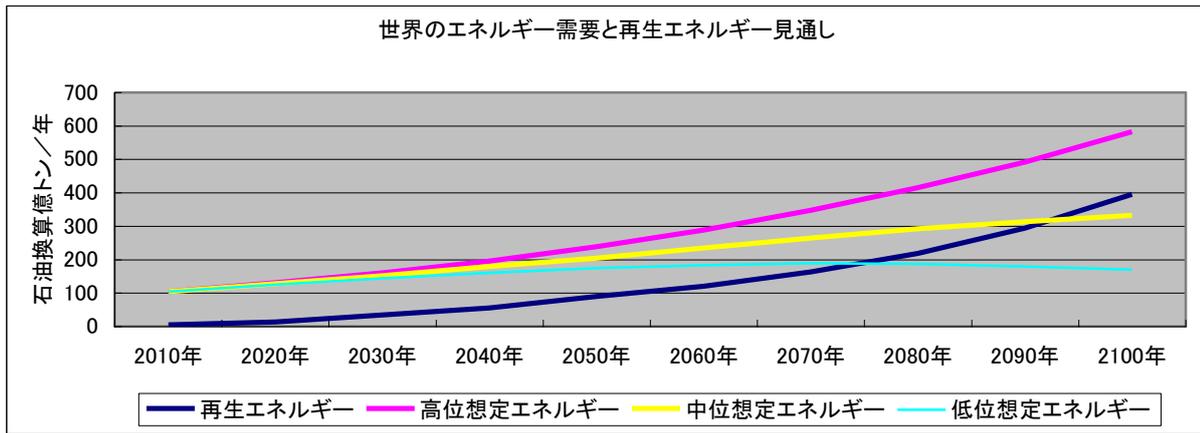
### 2. 戦後日本の8つの富の構造

#### 穴が開いてきている主な例

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| ①高い財政再建余力               | ・ 1990年以來国費の3～4割を借金で調達。<br>・ たまった公債1000兆円、消費税8%化も焼け石の水             |
| ②世界1巨額の日本金融資産220兆円余     | ・ 仮に財政赤字年40兆円との比では6年分と僅か。  |
| ③高い国際競争力・輸出立国・貿易黒字で外貨増。 | ・ 2011年2012年貿易赤字   |
| 巨額外貨準備高100兆円余（世界第二位）    | （11兆円/2年間と赤信号）。  |
| ④企業の高い国際競争力             | ・ 韓国三星・中国の安いコスト競争力に太刀打ちできず。<br>・ 敗退企業続出（デジタル家電不況・半導体3社連合苦境）        |
| ⑤世界NO. 2の巨大企業群          | ・ 内部留保は1990年112兆円、2011年267兆円と肥大化。<br>・ 非正規雇用増・賃下げ・地方工場の撤収（益々国内不況化） |
| ⑥海外投資旺盛：投資残1996年26兆円    | ・ 日本の空洞化・不況進行  |
| 2011年96兆円               |  |
| ⑦世界トップクラスの高い技術          | ・ 2011年福島原発事故で神話は一部崩壊  |
| ⑧国民総中流・手厚い内需            | ・ 貯蓄率激減・生活保護2百万人突破・消費年々減少  |

### 3. エネルギー・環境の悪化と地球の限界

1990年以降のグローバルな世界では人々は競って「私の幸福」を強く追い求め、今までにない自由・競争・弱肉強食・投機・環境悪化が強まっている。こうした中で、世界経済の基本になる資源やエネルギーの有限性・地球における限界性が見えるようになってきた。このまま「強欲」の拡大が継続すると、化石燃料の枯渇が世界を一挙に衰退に追い込み、環境悪化により持続不可能な世界に陥る。



人類の生存を確保するためには下記低位想定しかありえない。

	高位想定	中位想定	低位想定
自然エネルギーへの継続	X	△	○
温暖化対応	X	X	△

#### 4. 21世紀最大の勝利者：超国家企業

19、20世紀の世界覇権は、各々、植民地支配、圧倒的工業力による市場経済支配の形をとった。21世紀は、多国籍企業が超国家企業化し、超国家企業の金融・IT力が世界的に支配的となる。超国家企業は金融投機を繰り返しながら先進国財政を破綻に追いやるなど、世界中が益々超国家企業に振り回され、事態が深刻化しよう。

#### 5. このまま行くと破綻が待ち受けている。縮小社会にこそ活路がある。

このように21世紀においては「成長」は良い意味を示す言葉ではなくなっている。なぜなら「成長」の先に「破綻」が待ち受けているからだ。21世紀は下記の如くまさにカタストロフのオンパレードにもかかわらず、現実には追われて世界はタイタニック現実主義といういわばマヒ状態に陥り、カタストロフから脱出しようという力強い動きは見られない。まさに危機である。

概要	時期	場所	規模・影響
原水爆・核	1945年以降	広島・長崎・全世界	広島・長崎だけで29万人死亡。
チェルノブイリ	1986年	ロシア	死者100万人
東日本大災害・福島原発	2011年	東北・福島	死者・行方不明1.9万人。避難者30万人。直接被害16~25兆円(世界最大)
貧困・食糧難	20~21世紀	全世界	10億人が一日1ドル以下の生活費。
金融危機	1990年、2008年	日本 アメリカ	影響額1500兆円：GDPの3倍 影響額1500兆円：GDPの1.2倍
化石資源枯渇	21世紀	全世界	
温暖化	21世紀	全世界	
種の絶滅	21世紀	全世界	毎年3~6万種の生物が絶滅している。 過去の1000倍のスピード(エドワードウィルソン)

だからこそ人類は根本的なパラダイム転換を迫られているのだ。すなわち21世紀以降は成長ではなく衰退・縮小によってこそ人類が救われる可能性が高まり、自然と人類社会の修復チャンスともなる。ドイツ・イタリア・デンマーク・スイス・オーストリア・オーストラリアなどの脱原発の動きもカタストロフから抜け出し縮小社会を作り出そうという21世紀型の人類の知恵である。 以上